

出前市長室提言記録簿(4月20日開設)

No.	提言者		提言内容	応対
	男・女	年齢		
1	男	68	<p>南砺市の地震対策について</p> <p>①熊本地震では、支援物資がたくさん届いているが、被災地や避難所に配分するシステムが確立されておらず、行き渡っていないように思う。南砺市の場合はどうか。</p> <p>②熊本地震では、公共施設が損壊している。南砺市の公共施設の耐震化はどのような状況か。</p>	<p>①あれほど、大きな地震だと指定避難所だけでは足りない。たくさんの方が各避難所に散らばっているが、一か所に報道が入ると他社も追随し、他の避難状況がわからない。南砺市では、近隣市町村や金沢、愛知県の自治体と災害時相互応援協定を結んでおり、人の連携は確実であるが、物流の連携も強化しなければならない。また備蓄品も増やさなければならないと考えている。</p> <p>②庁舎をはじめ小中学校校舎、保育園の建物などの公共施設は、国土交通省が定める耐震基準をクリアしている。平成28年度には、井波社会体育館の耐震化工事を行う予定としている。</p>
2	男	68	<p>地方創生戦略について</p> <p>①「南砺幸せなまちづくり創生総合戦略」が全戸配布されたが、市民の関心が薄いように感じる。市民の意識醸成が大切であることから、行政としても積極的に市民に伝える仕掛けが必要ではないか。</p> <p>②若者の定住促進施策について、まずは南砺で暮らしてもらうことが大切だと思う。県内はもとより金沢など近隣への通勤圏であることなど、中学生や高校生への積極的なPRが必要ではないか。</p>	<p>①「南砺幸せなまちづくり創生総合戦略」については、中学生が読んでも理解できる内容を心がけた。漫画仕立てでPRしている自治体もあることから、小学高学年の児童が読んでも理解できるようみ砕いて発信することが大切だと考えている。市政出前講座などの機会を利用し、分かりやすく説明したい。</p> <p>②子どもたちには、機会があるごとに南砺の良い所や課題について話すよう心がけている。若い人向けには、短編映画を作成してyou tubeなどで南砺の魅力をPRしている。また、平成28年度からは、奨学金返還助成制度を設けて、市内に定住し就職する奨学生を支援していることから、この制度の充実を図りたいと考えている。まさしく、南砺で暮らしてもらうことが重要なので、子育て環境への支援なども含めてPRに努めるほか、県西部6市で連携して取り組んでいきたい。</p>
3	男	70	<p>人口減について</p> <p>人口減少に伴って、将来的に周辺自治体との合併への思いが進行すると考えられる。消防は広域化しているが、自治体が異なると現場にすぐに到着できるかが気掛かりだ。</p>	<p>将来的に人口減少が進むからと言って、すぐに自治体が合併という議論にはならない。現在でも、消防をはじめ介護保険やゴミ処理、水道などの業務は広域化が図られている。例えば、消防は広域化に伴って緊急車両の現場到着が早くなった。今後は、公共施設のあり方も含めて、富山県西部6市で構成する中枢都市圏などで連携し、相互にウィンウィンの関係を築くことが大きな流れとなると考えている。</p>
4	男	63	<p>人口減について</p> <p>「南砺幸せなまちづくり創生総合戦略」では将来の人口目標を3万人と設定しているが、3万人を維持できないと市が存続できないということか。自治体が消滅しても生活は変わらないと思うが、イメージができない。</p>	<p>統計データ等に基づいて消滅都市を唱えたレポートがあったが、自治体そのものが消滅する訳ではない。ただし、人口減少は避けられないので、子どもが減り、空き家が増加するなどの課題に向き合いながら、人口減少に少しでも歯止めをかけられるよう対策を行い、今の私たちはどのようにしたら幸せに暮らせるかを共に考えるべきだと思う。</p>

出前市長室提言記録簿(4月20日開設)

No.	提言者		提言内容	対応
	男・女	年齢		
5	男	66	<p>産婦人科の先生と南砺スマートインターチェンジ利用者数について</p> <p>①南砺市で勤務していただける産婦人科の医師が北海道にいるという話を聞いたが事実か。</p> <p>②南砺スマートインターチェンジは利用実績は開通以来どのように推移しているか。計画値と乖離があるか。</p>	<p>①具体的な情報はない。情報があれば教えてほしい。産婦人科については、医師3名および助産師5名が必要となってくるが、砺波医療圏に医師を派遣している大学でも医師数が不足している状況である。</p> <p>②東海北陸自動車道の市内路線は現状2車線でトンネルが長く対面通行であることから、タンクローリーなどの車両も通行できない状況である。このため、4車線化が実現すれば企業誘致等を含めて利用実績に繋がるものと考えている。まずは4車線化の実現を関係機関に働きかけているところである。</p>
6	男	65	<p>防災・救急と南砺市のまちづくりについて</p> <p>①消防署の井波移転に伴い県のドクターヘリの発着場が遠くなってしまった。利用が多かっただけに心配だ。防災・救急の観点から地区の広場を残していただきたい。</p> <p>②行政改革にともない人口が少ない地区に合わせたまちづくり事業になっているのでないか。</p>	<p>①ドクターヘリが降りられるグラウンドの民営化、閉鎖の検討時期は先に送っており、その時点の地区の人口等を考慮しながら精査していきたい。将来的にもドクターヘリが降りられる場所をたくさん確保しておきたい。</p> <p>②協働のまちづくりモデル事業やエコビレッジ構想推進モデル事業、活気に満ちた集落づくりモデル事業の3事業があるが、各事業の中で山間過疎地域を対象としているメニューがあるので、そのような印象があるかも知れない。提案いただいた計画は、改善しながら継続される過程において、たとえ補助金がなくても自立して実施できることが今後の課題だと思う。そのための知恵をお互いに出していく必要がある。個人でも団体でも地域でも、無利子のスタートアップ融資などを利用して事業に取り組みされる方がいらっやいます。そのような方々に市としてアドバイスができるようにしたいとも考えている。「やりたいことがやれる町を」地方創生のモットーに掲げているので、皆様からの提言をお聞かせいただきながらまちづくりを行っていききたい。</p>
7	男	66	<p>都会からの高齢者等の移住について</p> <p>高齢者等が都会から税金の安い地方に来てメリットがあるような移住計画についてお聞かせ願いたい</p>	<p>国のCCRC事業の一環で熟年からの移住を進めるというものがある。石川県のシェア金沢という民間企業が町を一体的に整備して高齢者や障害のある子供たちなどを受け入れ注目されているが、私は南砺市にはそぐわないと考えている。例えば、東京都で介護保険料を支払っておられた方が、介護が必要になったから地方に移住するということに違和感を感じる。制度の上では保険料を納められていた居住地の施設に最初に入所するというルールがあるそうだが、その後は地方の施設に転出しても良いということになる。介護が必要になったから地方に移住させるといった発想は、個人の尊厳の問題もあり、受け入れ難いと感じている。ただ、南砺市の出身であったり、50代、60代であってもまだまだお元気だという方にはお越しいただきたい。福祉の観点から、お元気な高齢者と子育て世代や子供たち、障害をもった方がともに支えあって暮らしていく富山型デイサービスのイメージを市全域に広げて地域包括ケアとしていきたい。</p>

出前市長室提言記録簿(4月20日開設)

No.	提言者		提言内容	対応
	男・女	年齢		
8	男	66	農業と産業について	
			①田植え時期と学校の運動会が重なっているため不都合がある。	①田んぼの畦道に子供の姿がなく寂しいと感じている。かつては農林水産業のまちが日本を作ってきた。それが経済の発達とともに農林水産業のまちから誇りが消えてしまった。もう一度農村のよさを見直しお年寄りから子供まで、皆が誇りを取り戻すことが大切だとし、世界的に著名な大学の先生が農村文明社会という考え方を提唱された。農村に住む人たちの心の中に、これが農村文明社会だと、明確に思っていたために7月に組織を立ち上げる予定である。校下の運動会も、農作業も共に大事であるので、運動会の日をずらす、ずらさないの議論ではなく農村文明社会の年間の活動の中で、地域の行事も農業も大切だという観点からご理解いただきたい。
			②人口対策として若い女性が定着する地域をつくってほしい	②若い子育て世代の人の考え方が最近徐々に変わってきた。子供を育てるなら田舎の方が良いと考える女性が増えているという。女性が動くと必ず男性も動くのでPRを強化している。この現象は世界的なもので、城端にもフランスからの子育て世代の移住者があると聞いている。
			③企業誘致とともに南砺市の特色を活かした産業を起こしてほしい。	③インターネットの時代なので女性が自宅でも働けるテレワークのような仕組みを真剣に考えている。働く場所、職種を考えると緑に囲まれ自宅で子育てと仕事ができる時代なので、空き家の提供だけでなく、市が提案を行い民間に造成をお願いするなど検討している。物を作ったり加工したりする人が東京にはたくさんおられるのでアニメーターだけではなく、創造的な人を南砺市に集約したい。大企業の誘致も魅力的だが、地域の特色を活かした産業開発に注目している。昔は盛んであったが、廃れてしまった生糸や薬草などが、現代では新たな用途ニーズが生まれている。このような分野の産業化にも取り組んでいく。また、間伐材の利用など地域資源を地域に回していくエコビレッジ構想も同時に進めていきたい。
9	男	65	施設再編について 市民病院と庁舎の再編の考えを聞きたい	市民が利用する医療圏域の民間病院も含めて必要な診療科目やベッド数を把握するため、地域の医療ニーズにあったシミュレーションを行っている。財政的観点も含め、必要に応じた病院のあり方を明確化し整備していく。庁舎再編は平野部は一つにまとめるとの方針を3月議会にて提案した。30～50年スパンでライフサイクルコストも考慮した5つの再編パターンを検討しているが、その間、社会構造は大幅に変化するであろう。予測がつかない部分もあるので、現時点で再編計画を確定して良いものか悩ましい面もある。10年ごとに計画見直しが必要になる。フレキシブルに考えていきたい。